

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391100175		
法人名	社会福祉法人フィロス		
事業所名	グループホームフィロスみなと 5階		
所在地	名古屋市港区名港1丁目6番1号		
自己評価作成日	令和 2 年 9月 11日	評価結果市町村受理日	令和3年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoCd=2391100175-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和 2 年 11月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>早朝、東側の大きな窓からは朝日が差し込みホームの向かい側にある神社の緑とのコラボレーションが楽しめる。また、その神社や近くの公園が散歩コースとなっている。フロアでは午前と午後、1日2回の体操や食事の盛り付けや後片付け、洗濯物たたみなど家事活動を日課としている。また、おやつレクやボール投げなどのほかにパズルや編み物などの個別レクも行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>特別養護老人ホームが併設された複合型施設の5階、6階にグループホームがある。「安心、さわやか、あったか空間」を理念に、その人なりの生活スタイルを大切にしたい支援をしていくために、職員間で話し合いケアにつなげるように心がけている。開設7年目となり地域との繋がりが深められ、歴史ある名古屋みなと祭りには毎年地域から要請があり職員は祭りの担い手として積極的に参加したり、入居者と共に祭りを楽しんでいる。移動販売車の場所を提供し地域の方が気軽に立ち寄り、買い物を通して入居者との交流を図っている。事業所主催の祭りには、地域の方も大勢参加し賑いを見せている。四季折々の移ろいを感じながらの散歩や買い物、花見、夕食などを一緒に楽しむ機会を継続することが入居者の励みや笑顔の源となっており、出向くことで地域との絆もさらに高められているが、コロナ禍の中、催しの中止などで踏み止まっている。職員は事業所でできることを生活の中に取り入れ、四季の移ろいや生活のメリハリを楽しめるように支援をしている。昼食は、それぞれのフロアで献立を考え、職員と一緒に食事を作り、テーブルを囲んで美味しく食している。各フロアにトイレが5か所設置され、扉の方向も周囲からの視線を考慮した造りでプライバシーが守られ排泄の自立支援に繋がっている。共同空間や居室は、開放的で四方の見晴らしが良く明るい空間となっている。大人の雰囲気が漂う落ち着いた環境の中で、一緒にゲームをしたり、テレビを見たり、職員とお喋りをして楽しく過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 2391100175					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は事務所や職員更衣室に貼ってあり管理者や職員は、出勤退勤時などにその理念が目に入るようにしている。	事業所の理念は職員の出勤時に、目視確認してケアに繋がれるように玄関や各フロア、事務所に掲げている。管理者や職員は理念を共有し、理念に沿った支援を目指したケアに努めている。月1回の各会議で振り返りを行ったり、新人研修では丁寧な指導を行い、実践につなげるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの神社や公園が散歩コースとなっている。昨年までは地域の最大のお祭りにも参加していた。	町内会に加入し地域情報を入手して学区のお花見に参加したり、みなど祭りのスタッフとして職員が参加したり、施設の前を通る山車を見物するなどして地域との交流を深めている。ボランティア活動や移動販売に1階フロアを開放して、地域の方と触れ合いながら買い物をしたり、保育園児との遊びの交流、フラダンスや大正琴などを皆で楽しんだり、日々の散歩や買い物などでも地域の方と触れ合い交流を深めていたが、現在は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議の場でホームでの行事の報告とともに参加者に施設入所の基準などもお話をしている。昨年までは地域のボランティア団体や保育園児の訪問も行っていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に参加されている家族からの質疑応答などや感染症などのへの取り組みの報告も行っている。	入居者家族や自治会長、民生委員、いきいき支援センター職員等が出席して2か月に1回開催している。事業所の報告や災害時の地域連携などについての話し合いが行われ、議事録をファイリングをして玄関に置き、いつでも見られるようにしている。関係諸機関には議事録を送付している。4月以降書面で行い、状況を見て10月に再開予定であったが延期となっている。	議事の内容は閲覧できるようになっているが、コロナ禍を機に入居者の家族や自治会などへ配布して、運営推進会議が身近なものと感じられるような取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、いきいき支援センターの職員が参加しておりホームでの行事報告をしている。いきいき支援センターからも行事の連絡やチラシなど持参されている。	申請の代行業務など機会あるごとに市の担当窓口を訪れ、相談や指導、アドバイスを受けたり、情報交換をしている。名古屋市の研修などはほとんど中止となっているが、ZOOMでの参加ができるものについては参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアやホームの玄関のドアは施錠をしない介護を行っており利用者は自分の意思でフロアからでられるようにしている。月1回、身体拘束防止委員会を開催している。	法人内には身体拘束廃止委員会が設置され、日常ケアの場面での振り返りを行い、拘束や虐待について理解を深め、職員間で共有をして、ピーチロック等に配慮し拘束感のないケアに努めている。玄関や各フロア、エレベーターの施錠はなく、入居者は自由に散歩や買い物に職員と出かけるようにしている。フロア間の交流は現在中止しているが、フロアごとの生活の中で拘束感がないよう工夫したり、職員のストレスが拘束につながらないように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	生活の中での声かけなどお互いに気になることは注意しあっている。また、月1回虐待防止委員会を開催し考える機会を与えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護センターやNPO法人の身元保証制度を利用されてみえる方がみえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前にホームの見学や現在の状況、相談などを行い契約の締結時に重要事項説明書を用いて文章と口頭で説明して、疑問点などにも答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に相談苦情窓口も設置している。家族には月1回のお手紙、面会時やお電話での状況を報告し意見を聞いている。利用者からは普段の何気ない発言などから思いを聞き取るようにしている。	日々の関わりの中で入居者と職員が話し合う機会が多く思いや意向を把握し、ケアに活かしている。家族とは面会時や行事、運営推進会議等で意見や要望を聞き運営に反映させている。現在、運営推進会議や面会は制限されている。居室担当者による毎月の手紙や電話での交流で意見や要望を聞き、可能な限りケアや運営に反映させている。玄関に意見箱を設置してまんべんなく意見や要望が聞けるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の職員総会で施設長に法人としての意見を直接求める場がある。普段では職員からの要望はフロア会議で取り上げリーダー会議で話合ったりしている。	日常の業務の中で随時職員の提案や意見を聞き、月1回のフロア会議やリーダー会議で見直しや改善に向けて話し合い、運営に反映させている。職員総会において、理事と職員が直接話す機会を設け、意見や要望を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得支援制度をもうけており職員が向上心をもって働けるようにしている。また、役職や保有資格に応じた給料制度を設けており、年に1回自己評価表を作成する事で職員自らを評価する機会も設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	館内では月1回の勉強会を実施し色々なテーマで開催している。また、職員の経験や資格に応じた外部の研修に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームページを開設し、ホームでの情報をネット上に発信するほか、職員の外部研修の参加を通して他の事業所職員との交流が図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込みの際に本人や家族から現在の状況をお聞きするとともに本人からもやりたいことや困りごとなどを伺うようにしている。利用開始後は普段の生活に中での会話から要望など把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込みの際に本人や家族から現在の状況とともに希望や要望、生活習慣などお聞きしている。また、利用開始後も定期的に家族への連絡などを行い日々の様子など伝え安心感をえられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前の面談で本人の状況と本人や家族の要望などとのすり合わせを行い必要であるならば訪問マッサージや医療面での支援など介護保険外のサービスなども検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で利用者に役割をもっていただき自身が誰かの役に立っているんだという意識がもてるに支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診などや日々の変化などを随時、報告し相談し行っている。月に1回手紙などでホームでの様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古い友人や知人などが気軽に来訪しており馴染みの美容院や親せきの法事やお墓参りなどにもでかけている。	コロナ禍以前は、家族や古い友人、知人の来訪があり旧交を深めていたが、今は玄関先でガラス越しの面会を行い、馴染みの関係を維持している。外出先での外食は、食への継続支援としていたが、テイクアウトを活用し楽しみに繋げている。年賀状や趣味の編み物、習字、カラオケ、囲碁・将棋などを通じて今まで培った経験を楽しみながら日常に活かすような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り会話ができるようにしている。レクリエーションや家事活動を行う際にも職員を交えてお互いが話し合いながら行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の場合は、家族の相談に応じて不安なく移行できるように情報の提供など行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の本人の生活歴や趣味活動、家族の意向などから思いを把握し利用後の生活の中で反映できるように努めている。	入居前の生活歴等を参考に、日々の関わりの中で思いや意向を聞き取るように努めている。入浴時や就寝前、散歩時などゆったりできる時間に傾聴し、思いや意向をくみ取りのように工夫をしている。困難な場合は表情やしぐさ、家族の協力を得ている。情報は申し送りやフロア会議等で共有しケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用の経緯については利用開始前の家族や本人からの聞き取りで把握している。利用開始後は今まで自宅で使用していた馴染みの家具や食器類など持参してもらおう事で不安なく利用が開始できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当制を導入しており利用者一人一人に担当の職員がおり、責任をもって観察を行い申し送りノートを使用し情報を他の職員へ発信している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者個別の介護記録に日々の状況を詳細に記入するとともにフロア会議やモニタリングやカンファレンスを定期的に行い介護計画の生かしている。	月1回のフロア会議で入居者全員の情報交換を行い、3か月毎のモニタリングを経て6か月に1回見直しをしている。介護計画見直しに当たっては、本人や家族の意見や要望を聞き、医師や看護師等関係者と担当者会議を開き、現状に即した介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録やバイタル表、申し送りノートなどに日々気づいた事などを記録し、それらをもとにフロア会議やカンファレンスで話し合うなどしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態の変化が現れた際に職員からの情報を集め本人と家族の意向を伺い話し合い介護サービス以外のサービス利用や専門医受診など対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活の中で天気の良い日には近くの公園や神社に散歩へでかけている。地域のボランティア団体や保育園児の訪問もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常生活での健康管理は提携医によるものであるが本人や家族の要望や状況に応じて入居前からのかかりつけ医に受診できるように支援している。	ホームの提携医による往診が月2回あり、希望で歯科やリハビリが週1回の受けられる。眼科等の専門医受診は家族の協力を得ている。本人や家族の希望があれば今までのかかりつけ医受診も支援をしている。受診情報は申し送ノートで周知共有をしケアに活かしている。併設の事業所から看護師の訪問が毎日あり健康管理を行い、状態に変化があれば提携医と連携の上迅速で的確な医療提携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルや食事や水分の摂取量など観察し普段と違う様子などに際には訪問医やかかりつけ医などへ相談しスムーズな受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を提供するほかに入院生活時に必要な物品を病院まで持参している。また、入院中に管理者は家族や病院関係者と話をする時間を設けて退院後の生活が円滑にすすむようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に将来的な考えもお聞きしており本人の状況の変化がみられた場合や重度化した場合など事業所として行える事などを随時話している。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所としての方針を説明し同意を得ている。状況が変化した場合は、その都度本人や家族に確認し、看取りを希望される場合は医師や看護師その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるようにチームで協力して対応している	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変した場合の対応の仕方など勉強会を開催しており、緊急時のフロチャートを作成しフロアに掲示してある。また、普段とご様子の違う場合には、速やかに家族へ連絡し受診の相談をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣にある消防署の協力をえて火災や水害などの想定避難訓練を年間2回も含めて年に2回行っている。設備としても防火扉やスプリンクラーの設置もしている。	年2回総合施設合同で、昼・夜や水害等様々な場面を設定しながら避難訓練を行っている。うち1回は消防署立会いのもとで行い、避難時の安全や協力体制について指導やアドバイスを受けている。地域との協力体制の下、訓練を行っている。備蓄品は職員を含め3日分が準備されており、管理やチェック体制は法人本部で行っている。コロナ禍に伴い、災害について資料とビデオでの研修を行っている。また、地域合同の避難訓練は実施していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄介助時などを中心にプライバシーを損ねないように注意し声かけなど利用者は人生の先輩であるという考えをもつようお互い注意しあうように努めている。	入居者のこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、より良く過ごせるよう配慮している。人格を否定しない声掛けを基本に、個々の生き方を尊重しケアに努めている。親しさや馴れ馴れしさの違いに留意したり、入浴時や排泄時のプライバシーについて職員同志確認したり注意し合いながら支援に努めている。外国籍スタッフについては接遇などの研修を個別で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動参加など本人の意向を聞き行うようにし参加の有無にかかわらず様子など記録にとどめ次回に生かせるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間割通りに行うのではなく利用者の体調や気分に合わせて時間を変更するなどの対応もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には月1回ホームに来る訪問美容でヘアカットをしている。家族同行で行きつけの美容院へ行かれる方もいる。着替えに関しても季節に沿った服が身に着けられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー決めの際にはリクエストメニューや季節に沿ったメニューをとiriれ日々の食事作りや盛り付け、配膳、片づけなど利用者が行える事を見つけ出して職員の声かけや介助により行えるようにしている。	朝夕は複合施設の厨房で調理されたものを入居者と共に盛り付け配膳をしているが、昼食は入居者の好みや希望を取り入れたメニューを各ユニットごとに作成し、手作りをしている。職員の声掛けで入居者と職員と一緒に準備や調理、後片付けを行っている。職員も同じテーブルを囲み楽しい雰囲気盛り上げながら適切な介助を行っている。手作りおやつやお正月のおせち、節分の恵方巻など季節の行事料理も楽しみの一つとなっている。外食ツアーは現在行っていない。コロナ禍での食事の提供について、現在模索中である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量をチェックし利用者の状態に合わせた食事形態にしている。体重測定も毎月行っている。また、食事形態やとろみをつけるなど本人の状態にあった形で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、準備や声かけをして歯磨きが行えるようにしている。自己にて行えない方は介助で行っている。入れ歯の方は夜間帯に洗浄剤を使用し消毒している。希望者には訪問歯科受診の支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握するように心がけ、定期的な声かけや誘導など行い可能な限りトイレでの排泄を心掛けている。	排泄チェック表を基に排泄パターンを把握し、個々に合った適切な声掛けや誘導を行い自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツとパットの使用のみで、おむつやポータブルトイレの使用はない。便秘予防では食品や水分摂取、運動に留意し、記録をもとに必要時医師や看護師に相談しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録や水分摂取量をチェックし、食事にヨーグルトを取り入れたり水分摂取量の少ないかたにはお茶やポカリスウェットをゼリーにして随時提供している。また、便秘による影響を把握し滞りなく排便ができるように往診医に相談もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴となっており本人の体調や状況に応じて対応をしている。また、菖蒲湯や柚湯など季節を感じられるようにしている。	週3~4回の入浴支援を基本に、本人の体調や状況に応じた支援をしている。毎日の希望にも対応している。個浴と機械浴が設置されている。しょうぶ湯やゆず湯等季節の湯を楽しんだり、個々にシャンプーや化粧水を使われる方もある。脱衣室は床暖房となっており冬季のヒートショックに配慮されている。入浴拒否の方には声掛けやタイミングを工夫した支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間、利用者の状況に応じて個別に横になる時間を設けたり、シーツ交換を定期的に行うなどして気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診時に処方された服薬の管理を行い、処方薬に変化があった場合は情報を共有し確実に服薬できるように個別に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課として家事活動を役割として行っている。また、利用開始前から行っていた趣味活動など行えるように支援している。気分転換に近隣に散歩など出かける機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の生活の中では近くにある神社や公園に散歩に行っている。また、家族からの希望で外出を行えるようにしている。	玄関やエレベーター、フロアの入り口は施錠しておらず、日常的に近くにある神社や公園への散歩、買い物や喫茶店に出かけている。2か月に1回の外食ツアーや四季折々の花見、水族館等へは年間計画に組み入れてみんなで出かける外出支援をしている。家族や本人からの希望にも、家族の協力を得ながら支援をしている。コロナ禍において十分な外出支援は難しい状況にあるが、出来る限り公園や神社など近隣へ散歩に出かけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭を管理している方はいないが希望があれば近隣や移動販売時に買い物へいき好きな物を選んで購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの要望で携帯電話を所持している方がみえ家族と直接連絡をとったり定期的に家族から電話がありつないだりしている。また、家族から毎日手紙がきたり利用者からも毎年年賀状を家族にだしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにある大きな窓から光が差し込んでフロア全体を明るく照らしている。また、利用者は、その窓から見える景色を楽しんだりしている。フロアには利用者と職員と一緒に作った季節ごとの手作りの作品が飾られている。	5階と6階の各フロアの共用空間は明るく清潔で、臭いや湿度等管理されている。食堂と居間がワンフロアになっており、居室入り口や居間でくつろぐ入居者の様子が一目で見渡せる様になっている。居間の大きな窓からは、四季折々の街の風景が楽しめ、「あそこから花火が見える」など楽しそうに話す入居者の姿がある。壁面には入居者が職員と共に作成した季節の作品や、年間の行事写真が飾られている。入居者の役割分担票もあり、職員と共に昼食の準備に生き生きと活動される姿が見られる。アルコールを各職員が携帯しており、適宜除菌を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはTVの前にソファがおいてあり利用者同士でTVを見ながら、ゆったりと過ごせるようにしている。また、利用者は自由に居室とフロアを出入りできるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居開始時に家族の協力のもと自宅で使用されていた物をもってきていただくようにしている。また、本人が居室の出入り口に名札を取り付けたり好みに応じてのれんを使用したりして自分の居室である事を認識できるようにしている。	居室入り口には名札と好みのれんが自分の部屋と認識できるように掛けられている。エアコンやカーテン、ベット以外は、馴染みの子筆筒やテーブル、テレビ等を家族と相談しながら持ち込み、写真や小物などを飾って落ち着いた自分の部屋を整えている。仏壇持参の方は毎日、花瓶の水替えやお供え物の整理を職員と共に行っている。清潔と安全に留意した環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの出入り口は施錠しておらず、また、ドアが引戸になっており自身で自由に開閉できるようになっている。ホーム内の作りも手すりが取り付けられており、自らがつかまり歩けるようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391100175		
法人名	社会福祉法人フィロス		
事業所名	グループホームフィロスみなと 6階		
所在地	名古屋市港区名港1丁目6番1号		
自己評価作成日	令和 2 年 9月 11日	評価結果市町村受理日	令和3年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391100175-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和 2 年 11月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東側にある大きな窓から日の出を拝む事ができ向かい側にある神社の緑とマッチして幻想的な景色がみられる。また、その神社や近くにある公園などへ散歩へ行くなどしている。今年新型コロナウイルスの影響で「海の日」に地域で行われるイベントが中止となったが本来は、その日に大きな火花が上げられて居室の窓から見える。フロア内では、日課として毎朝の体操やフロア内の歩行の時間を設けるなどして下肢筋力の低下予防を図っており食事の盛り付けや洗濯たみなどの家事活動も行われている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームや小規模多機能型居宅介護事業所が併設された複合型施設の5階、6階にグループホームがある。「安心、さわやか、あったか空間」を理念に、その人なりの生活スタイルを大切に支援をしていくために、職員間で話し合いケアにつなげるように心がけている。開設5年目となり地域との繋がりが深められ、歴史ある名古屋みなと祭りには毎年地域から要請があり職員は祭りの担い手として積極的に参加したり、入居者と共に祭りを楽しんでいる。移動販売車の場所を提供し地域の方が気軽に立ち寄り、買い物を通して入居者との交流を図っている。事業所主催の祭りには、地域の方も大勢参加し賑いを見せている。四季折々の移ろいを感じながらの散歩や買い物、花見、外食などを一緒に楽しむ機会を継続することが入居者の励みや笑顔の源となっており、出向くことで地域との絆もさらに高められている。昼食は、それぞれのフロアで献立を考え、職員と一緒に食事を作り、テーブルを囲んで美味しく食している。各フロアにトイレが5か所設置され、扉の方向も周囲からの視線を考慮した造りでプライバシーが守られ排泄の自立支援に繋がっている。共同空間や居室は、開放的で四方の見晴らしが良く明るい空間となっている。大人の雰囲気や漂う落ち着いた環境の中で、一緒にゲームをしたり、テレビを見たり、職員とお喋りをして楽しく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念: 2391100175					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は事務所や職員更衣室に貼ってあり管理者や職員は、出勤退勤時などにその理念が目に入るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの神社や公園が散歩コースとなっている。昨年までは地域の最大のお祭りにも参加していた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議の場でホームでの行事の報告とともに参加者に施設入所の基準などもお話をしている。昨年までは地域のボランティア団体や保育園児の訪問も行っていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に参加されている家族からの質疑応答などや感染症などのへの取り組みの報告も行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、いきいき支援センターの職員が参加しておりホームでの行事報告をしている。いきいき支援センターからも行事の連絡やチラシなど持参されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアやホームの玄関のドアは施錠をしない介護を行っており利用者は自分の意思でフロアからでられるようにしている。月1回、身体拘束防止委員会を開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	生活の中での声かけなどお互いに気になることは注意しあっている。また、月1回虐待防止委員会を開催し考える機会を与えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護センターやNPO法人の身元保証制度を利用されてみえる方がみえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前にホームの見学や現在の状況、相談などを行い契約の締結時に重要事項説明書を用いて文章と口頭で説明して、疑問点などにも答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に相談苦情窓口も設置している。家族には月1回のお手紙、面会時やお電話での状況を報告し意見を聞いている。利用者からは普段の何気ない発言などから思いを聞き取るようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の職員総会で施設長に法人としての意見を直接求める場がある。普段では職員からの要望はフロア会議で取り上げリーダー会議で話合ったりしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得支援制度をもうけており職員が向上心をもって働けるようにしている。また、役職や保有資格に応じた給料制度を設けており、年に1回自己評価表を作成する事で職員自らを評価する機会も設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	館内では月1回の勉強会を実施し色々なテーマで開催している。また、職員の経験や資格に応じた外部の研修に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームページを開設し、ホームでの情報をネット上に発信するほか、職員の外部研修の参加を通して他の事業所職員との交流が図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込みの際に本人や家族から現在の状況をお聞きするとともに本人からもやりたいことや困りごとなどを伺うようにしている。利用開始後は普段の生活に中での会話から要望など把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込みの際に本人や家族から現在の状況とともに希望や要望、生活習慣などお聞きしている。また、利用開始後も定期的に家族への連絡などを行い日々の様子など伝え安心感をえられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前の面談で本人の状況と本人や家族の要望などとのすり合わせを行い必要であるならば訪問マッサージや医療面での支援など介護保険外のサービスなども検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で利用者に役割をもっていただき自身が誰かの役に立っているんだという意識がもてるに支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診などや日々の変化などを随時、報告し相談し行っている。月に1回手紙などでホームでの様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古い友人や知人などが気軽に来訪しており馴染みの美容院や親せきの法事やお墓参りなどにもかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り会話ができるようにしている。レクリエーションや家事活動を行う際にも職員を交えてお互いが話し合いながら行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の場合は、家族の相談に応じて不安なく移行できるように情報の提供など行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の本人の生活歴や趣味活動、家族の意向などから思いを把握し利用後の生活の中で反映できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用の経緯については利用開始前の家族や本人からの聞き取りで把握している。利用開始後は今まで自宅で使用していた馴染みの家具や食器類など持参してもらおう事で不安なく利用が開始できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当制を導入しており利用者一人一人に担当の職員がおり、責任をもって観察を行い申し送りノートを使用し情報を他の職員へ発信している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者個別の介護記録に日々の状況を詳細に記入するとともにフロア会議やモニタリングやカンファレンスを定期的に行い介護計画の生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録やバイタル表、申し送りノートなどに日々気づいた事などを記録し、それらをもとにフロア会議やカンファレンスで話し合うなどしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態の変化が現れた際に職員からの情報を集め本人と家族の意向を伺い話し合い介護サービス以外のサービス利用や専門医受診など対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活の中で天気の良い日には近くの公園や神社に散歩へでかけている。地域のボランティア団体や保育園児の訪問もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常生活での健康管理は提携医によるものであるが本人や家族の要望や状況に応じて入居前からのかかりつけ医に受診できるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルや食事や水分の摂取量など観察し普段と違う様子などに際には訪問医やかかりつけ医などへ相談しスムーズな受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を提供するほかに入院生活時に必要な物品を病院まで持参している。また、入院中に管理者は家族や病院関係者と話をする時間を設けて退院後の生活が円滑にすすむようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に将来的な考えもお聞きしており本人の状況の変化がみられた場合や重度化した場合など事業所として行える事などを随時話をしてる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変した場合の対応の仕方など勉強会を開催しており、緊急時のフロチャートを作成しフロアに掲示してある。また、普段とご様子の違う場合には、速やかに家族へ連絡し受診の相談をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣にある消防署の協力をえて火災や水害などの想定避難訓練を夜間想定も含めて年に2回行っている。設備としても防火扉やスプリンクラーの設置もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄介助時などを中心にプライバシーを損なわないように注意声かけなど利用者は人生の先輩であるという考えをもつようお互い注意しあうように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動参加など本人の意向を聞き行うようにし参加の有無にかかわらず様子など記録にとどめ次回に生かせるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間割通りに行うのではなく利用者の体調や気分に合わせて時間を変更するなどの対応もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には月1回ホームに来る訪問美容でヘアカットをしている。家族同行で行きつけの美容院へ行かれる方もいる。着替えに関しても季節に沿った服が身に着けられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー決めの際にはリクエストメニューや季節に沿ったメニューをといりれ日々の食事作りや盛り付け、配膳、片づけなど利用者が行える事を見つけ出して職員の声かけや介助により行えるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量をチェックし利用者の状態に合わせた食事形態にしている。体重測定も毎月行っている。また、食事形態やとろみをつけるなど本人の状態にあった形で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、準備や声かけをして歯磨きが行えるようにしている。自己にて行えない方は介助で行っている。入れ歯の方は夜間帯に洗浄剤を使用し消毒している。希望者には訪問歯科受診の支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握するように心がけ、定期的な声かけや誘導など行い可能な限りトイレでの排泄を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録や水分摂取量をチェックし、食事にはヨーグルトを取り入れたり水分摂取量の少ないかたにはお茶やポカリスウェットをゼリーにして随時提供している。また、便秘による影響を把握し滞りなく排便ができるように往診医に相談もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴となっており本人の体調や状況に応じて対応している。また、菖蒲湯や柚湯など季節を感じられるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間、利用者の状況に応じて個別に横になる時間を設けたり、シーツ交換を定期的に行うなどして気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診時に処方された服薬の管理を行い、処方薬に変化があった場合は情報を共有し確実に服薬できるように個別に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課として家事活動を役割として行っている。また、利用開始前から行っていた趣味活動など行えるように支援している。気分転換に近隣に散歩など出かける機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日の生活の中では近くにある神社や公園に散歩に行っている。また、家族からの希望で外出を行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭を管理している方はいないが希望があれば近隣や移動販売時に買い物へいき好きな物を選んで購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの要望で携帯電話を所持している方がみえ家族と直接連絡をとったり定期的に家族から電話がありつないだりしている。また、利用者からも毎年年賀状を家族にだしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにある大きな窓から光が差し込んでフロア全体を明るく照らしている。また、利用者は、その窓から見える景色を楽しんだりしている。フロアには利用者と職員と一緒に作った季節ごとの手作りの作品が飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはTVの前にソファがおいてあり利用者同士でTVを見ながら、ゆったりと過ごせるようにしている。また、利用者は自由に居室とフロアを出入りできるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居開始時に家族の協力のもと自宅で使用されていた物をもってきていただくようにしている。また、本人が居室の出入り口に名札を取り付けたり好みに応じてのれんを使用したりして自分の居室である事を認識できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの出入り口は施錠しておらず、また、ドアが引戸になっており自身で自由に開閉できるようになっている。ホーム内の作りも手すりが取り付けられており、自らがつかまり歩けるようになっている。		